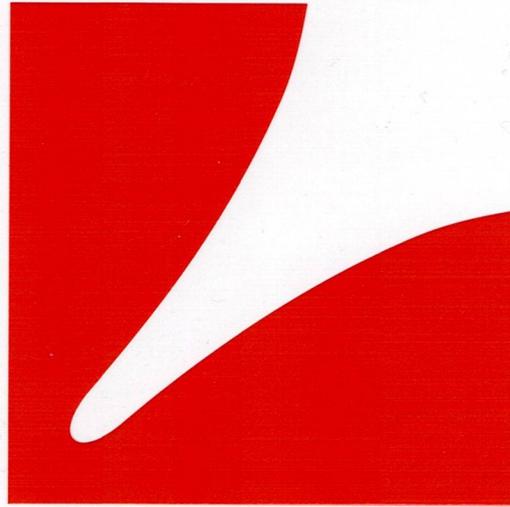


オーディオの総合月刊誌 **ステレオ**

stereo



100th

ANNIVERSARY

since 1925



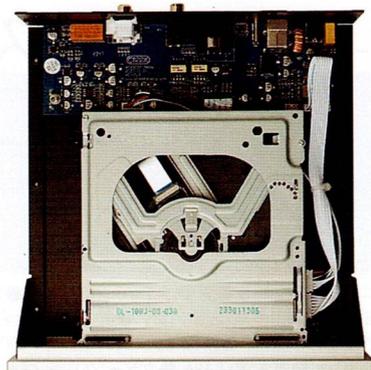
ラックスマン100周年

CDプレーヤー | クリーク
4040CD

¥180,000

●アナログ音声出力端子:RCA×1 ●デジタル音声出力端子:RCA×1、TOS×1、XLR(AES-EBU)×1 ●消費電力:20W(最大)、0.5W未満(スタンバイ) ●大きさ:215W×60H×220Dmm ●重さ:1.8kg ●主な付属品:リモコン他 ●カラー(フロントパネル):シルバー、ブラック ●問い合わせ先:ハイ・ファイ・ジャパン E-mail:mail@hifijapan.co.jp





背面。アナログ音声出力はRCA端子で1系統、デジタル音声出力端子は同軸(RCA)、光(TOS)に加え、AES-EBU(XLR)も備えている

上面からの内部。厚みのあるフロンパネルが確認できる。ACアダプターを用いるため電源部はなく、ほぼスロットイン式のドライブメカが占められている

1982年に発売されたクリーク初のプリ・メインアンプであるCAS4040を連想させる型番と同じ思想を持つ、同社40周年記念のプリ・メインアンプ、4040AとペアとなるCDプレーヤー。同社の製品は音楽好きの人に向けて設計されているとい、最小限の操作、シンプルで無駄のないデザイン、最先端の技術の搭載などをテーマに掲げ、以前からコンパクトな機器のリリースが多いようだ。本機はデスクトップでの使用も考慮され、幅215×高さ60mmと小型で、厚みのあるアルミ製フロントパネルと仕上げのきれいなボンネットを備えている。機能は必要最小限に抑えられ、ディスクの装填はスロットイン式。4040Aとの組合せでは4040Aに内蔵されたESS社のDACチップ、ESS9018K2Mを使うデジタル接続が推奨されている。

**非常になめらかで
刺激性を感じさせない**

デザインや使い勝手もプリ・メインアンプの4040Aとの組合せに配慮されたCDプレーヤーだが、内蔵のDACを活用してのアナログ出力は非常になめらかでやや大人しやか、刺激性を感じさせることなく、小型スピーカーにありがちな高域に若干の刺激性を感じさせるようなスピーカーを組み合わせると好結果につながりそう。やや大型なシステムとの組合せは、高域にキツさがなく聴きやすいが、反面メリハリ感は薄めで分解性や解像力はやや甘めになり、オーケストラサウンドは大人しくなり、マリimbaや箏など立ち上がり鋭いにはやや勢いを欠くようだ。旋律楽器やヴォーカルは前への張り出しが欲しいところ。反面、中低域から低域はややたつぷり気味でおおらかな印象。(石田④)

**音楽の要所を押さえ
折り目正しく伝える**

プリメインの4040Aとペアになるモデルだ。もちろん単品として、またデジタル系システムに追加して、フィジカルディスクが楽しめる。コンパクト機で電源もアダプターというところで、表現がどうしても小ぶりになるのは否めない。しかしそこは伝統のブランド、音楽の要所を押さえ、折り目正しく伝える点は好感が持てる。パリス・ボウアスの「シャープニング・ア・ナイフ」(CD層)のヴォーカルは若干フラットで低域も浅い。カウント・ベイシー・オーケストラはトゥッティは控えめだが、音場感やドライブ感など抑揚に富んだ音を聴くことができた。やはり本機は英国流の家庭用としてペアでの使用が望ましいだろう。その場合アンブ装備の上級DACが使えるメリットも生まれる。(岩田⑧)

**優しさがあり
丁寧な感じの表現力**

既発売のプリ・メインアンプとサイズを合わせての使用を考え、外付けのユニバーサル電源を採用してコンパクトにまとめたCD-ROM用のドライブユニットを用いているのでトラック送りはややぎこちないが、その他の操作では特に問題となるところはなかった。レンジ感ももう少し欲しい気もするが、優しさがあり丁寧な感じの表現力を備えている点でCDプレーヤーとしての汎用性は高いと思う。S/N感もとれているし素直さを持ち合わせているのも長所である。ヴォーカル楽曲ではもう少しディテールを描き出したいが、落ち着いた音のあるサウンドが楽しめた。クラシックのオーケストラ楽曲も演出感の少ない素直な表現力で、聴きやすいバランスにまとめている。(潮⑧)

**ポピュラー系を主体に
うまく聴かせるバランス**

英クリーク社のコンパクトなCDプレーヤーで、40周年を記念して同デザインのD/Aコンバーターを内蔵したDクラスアンプと同時発売された。電源はACアダプター方式であるが、透明度は高く中低音の厚みもしっかり出してくる。デスクトップ構成で小型システムを組む場合は、ヴォーカル帯域を主体に中間帯域の表現力はかなり充実した、安定感のあるサウンドが得られるだろう。ポピュラー系を主体にうまく聴かせるバランスである。ただ、中高域の精度を要求するサウンドになると、この帯域の解像力や克明さが大人しくなり、高域はしなやかに推移する。マイナスイもあるがヴォーカル帯域はうまく表現。ベストな使い方はアンプ内蔵のDACを使うことが推奨されている。(福田⑬)